

複数武道種目授業

実践の紹介

「武道推進モデル校」事業を活用した 複数種目（柔道・弓道）の実践

本校は、群馬県北西部の山間部にあり、令和3年度の生徒数は、第1学年1名、第2学年3名、第3学年7名の計11名という極小規模の中学校である。周囲は豊かな自然に囲まれており、これらの自然とともに育んできた伝統文化が今も多く残されている。

本校は、地域の特色を生かした学校づくりとして、平成27年度に「弓道部」を設置し、地域人材を指導者に迎えて活動を開始した。同30年度には保健体育の武道授業として「弓道」をスタートさせた。令和元年度からは武道推進モデル校の指定を受け、体力向上や武道指導の充実を図ってきた。今回は、本校における弓道部設置の経緯や全国的にも珍しいと思われる「弓道」と「柔道」の授業の取り組みを紹介する。



校舎全景

群馬県中之条町立六合中学校
校長 桑原 武史
教諭 山崎 一信

はじめに

六合中学校は、平成27年度にクラブ活動として弓道部を設置し、平成30年度には保健体育の武道授業として弓道を開始した。令和元年度からは、スポーツ庁の武道等指導充実・資質向上支援事業を受け、群馬県教育委員会から武道推進モデル作成事業の指定を受け、体力向上や武道指導の充実を図ってきた。一方、本校では平成29年度までは武道授業で柔道に取り組んできた。弓道部が設置されたことと、学習指導要領に弓道が例示されたことなどから、平成30年度より柔道と弓道の複数種目に取り組むこととなった。

2 弓道授業の概要

(1) 平成27年度の取り組み

本校では平成26年度末に、次年度入學予定の新生に運動部への適応が心配な生徒がいることから、受け皿としての文化部の設置の検討を始めた。最初はJRC(青少年赤十字)活動部などを候補に検討したが、学校の近くに「誠心館」という弓道場があること、地元には弓道に熱心に取り組んでいる方が比較的多いこと、地域の弓道経験者を外部指導者に依頼することなどで地域連携の推進につながることを理由として、弓道部を設置する案が浮上した。地区の体育協会弓道部を通して、地域在住の有段者2名を外部指導者として確保できる見通しが立ち、誠心館を活動場所として借用する許可も得られたため、職員の了解を得て平成27年度から弓道部を設置することが決定した。

(2) 平成30年度の取り組み

当初は運動部と文化部の中間的な位置付けのような活動内容でスタートした。部員は、他の部をやめた2年生が1名入部して部長となり、新入生が2名入部し、計3名であった。誠心館での練習は週1回程度で、他の日は学校でトレーニングを行ったり、学習に取り組んだりしていた。外部指導者への謝金は六合中学校後援会より支出した。



ゴム弓を使用しての指導(平成30年度)

ただいた。六合中学校を卒業する生徒は全員弓を引いた経験があるということを学校の特色の一つに加えようということで職員の賛同も得られたため、次年度(平成30年度)からの実施を決め、準備を進めた。

1年生は柔道、2年生が弓道に取り組むこととし、部活動の外部講師の先生方にお世話になり、2時間続きで6回、全12時間の学習

単元を作成していただいた。練習道具などは予算の範囲内でできるだけ購入し、足りない物は、弓道部や誠心館の物を借用した。

(3) 令和元年度の取り組み

スポーツ庁の「武道等指導充実・資質向上支援事業」を受けた群馬県教育委員会による「ぐんまの子ども体力向上推進事業」の「武道推進モデル作成事業」の指定を受けた。

この事業は、中学校の武道授業の充実、教員の指導力の向上を図ることをねらいとし、外部指導者の活用や武道授業における複数種目の実践など、指導の柔軟化の実践研究を行うものである。この指定は3年間の継続事業である。これにより、定期的に県教育委員会健康体育課からの指導・助言を受けるとともに、謝金や消耗品費などで支援を受けられ、授業の充実につながることができた。また、県教育委員会作成のガイドブックに、本校での授業の様子を収録し

たDVDを添付して全県に配付してもらい、本校の取り組みを広く発信できた。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大により、配慮すべき事項が数多くあった。それは手指の消毒の徹底とマスクの着用である。体育館の入り口に消毒液を設置し、入館の度に手指の消毒を行った。マスクも常時着用して、できるだけ声を控えて活動したり、生徒同士の距離を保つことを徹底した。

(4) 令和2年度の取り組み

保健体育の授業で弓道を選択している学校への支援事業として、令和2年11月5日に全日本弓道連盟から弓具一式(弓10張、矢40本、ゴム弓10本など)を贈呈された。これにより、弓道を実施するための環境が大幅に充実し、道具の面でほぼ不足なく授業を実施できるようになった。



中沢富一氏(外部指導者)による指導



全日本弓道連盟から弓具一式を贈呈された



28m先の的に向かって弓を引く生徒



的前学習

日本武道館発行の単行本

弓道 その歴史と技法

筑波大学准教授 松尾牧則 著



四六判・上製・484頁・本体2400円＋税

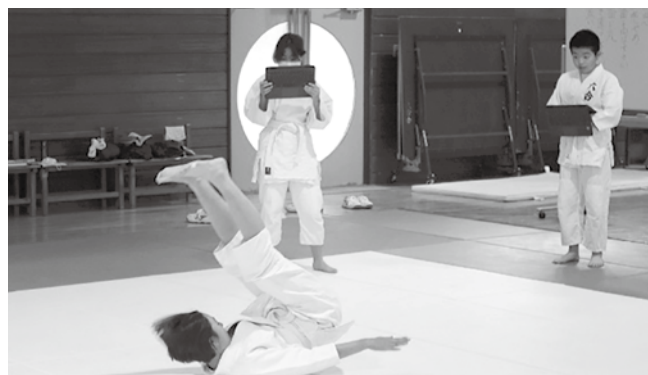
◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp

弓矢の発生から日本の弓術発達、技法の発展を概観し、世界の弓術も紹介。現代弓道の課題や射法にも踏み込む。

柔道の指導においては、令和2年度までは第1学年のみで実施していたが、生徒数の減少に伴い、令和3年度からは1・2年合同で実施することにした。指導の工夫としては、少人数の利点を生かして、少人数の利点を生かすよう

て個別にきめ細かい指導を行い、固め技など2人組での攻防を楽しみながら学習を進められるようにしている。また、タブレット端末で互いの動作を撮影し合い、自分の動きを客観的に確認できるよう



多角的にICTを使って技能の課題点を探る

3

柔道授業の概要

合つて振り返りに生かした。
▼生徒の感想
・弓道は初めてなので慣れないことが多かった。弓を引くときは力が必要だった。
・弓道では、2人の講師の先生から丁寧に教えていただき、的に2本中であられてうれしかった。

にするなど、ICT機器を取り入れて学習の充実につなげている。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、2人で組み合うような技の練習ができないため、礼儀作法や受け身、補助トレーニングなどの学習が中心になっており、単元の指導計画を11時間から6時間に縮小して実施している。

▼生徒の感想

・柔道で一番難しかったのは前回り受け身だったが、端末で自分の動きを分析できてより早くコツをつかめた。

令和3年度 多様な武道の指導モデル 第1、2学年（2学級4名）

時間	1	2	3	4	5	6
種目	柔道					
	オリエンテーション (創始者・柔道精神・授業の流れ)	受け身の学習(後ろ受け身)補助トレーニング (エビ・脇締め・自転車こぎ) 端末による課題解決学習	受け身の学習(横受け身)補助トレーニング (エビ・脇締め・自転車こぎ) 端末による課題解決学習	受け身の学習(前回り受け身)補助トレーニング (エビ・脇締め・自転車こぎ) 端末による課題解決学習	受け身の学習(前回り受け身)補助トレーニング (エビ・脇締め・自転車こぎ) 端末による課題解決学習	実技試験 学習カードまとめ
	学習の流れ					

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
弓道											
弓道とはどのような武道なのか オリエンテーション 礼儀作法の学習	基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習	基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習	基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習	基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習	基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習	基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習	基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習	基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習	基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習	基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習	基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習 基本動作の学習

(5)令和3年度の取り組み
生徒数が2年生3名、1年生1名と減少したことにより、指導計画の見直しを行い、1年間に柔道、弓道の2種目を実施することとした。また町内の児童・生徒に配布されたタブレット端末を活用し、授業を実践した。

▼実践の狙い
・地域の特色を生かした弓道指導の充実を図る。
・外部指導者を活用し、効果的な指導ができるように担当教師と役割分担を工夫する。
・生徒の安全を確保するために指導を工夫する。
・情報通信技術(ICT)の活用を通して、教え合い活動や課題解決学習の充実を図る。
・弓道を通して、的に向かうまでの礼儀作法を身に付ける。集中力を発揮できる育成を図る。

▼指導の工夫
【効果的に指導するための工夫】
・外部指導者や地域の弓道場を活用することで、専門的な指導を受けることができる。
・生徒の安全を確保するために指導を工夫する。
・情報通信技術(ICT)の活用を通して、教え合い活動や課題解決学習の充実を図る。
・弓道を通して、的に向かうまでの礼儀作法を身に付ける。集中力を発揮できる育成を図る。

【安全を確保するための工夫】
・柔道での安全事項を振り返るとともに、弓道でも鋭い矢を使用するため、活動ごとに安全に係る事項を確認しながら学習を進める。
・柔道で学んだ「精力善用」「自他共栄」の精神を生かし、弓道でも生徒一人一人の安全な活動スペースを確保できるように留意し、外部指導者や教員が生徒の動きを確認しながら活動できるように配慮する。

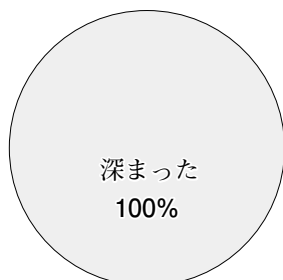
授業ではICTを導入し、令和3年度に配備されたタブレット端末を活用し、互いの様子を撮影し、自分の動きを客観的に確認できるよう

4 アンケートの結果から

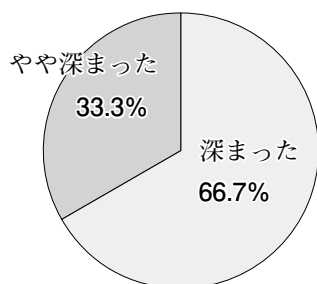
〈生徒の意識、感想、変容など〉

(回答者=3人)

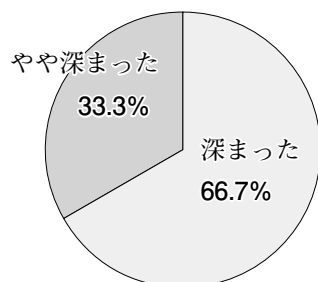
1. 2種目の武道（または柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。



2. 2種目の武道（または柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。



3. これからも多くの武道種目を学習したいと思いますか。



令和2年度から3年度にかけては新型コロナウイルス感染症の拡大により、柔道の授業では技を掛け合うような内容の実施が難しい状況になっている。そのような状況で、他者との接触がなく、ソーシャルディスタンスを確保できる弓道を武道授業として実施するこ

とは、より一層意義が感じられるものであった。また、地域の人材を活用し、地域の方々と触れ合う体験となり、弓道部を設置したことを一つのきっかけとして、武道授業で弓道への取り組みが始まり、卒業するまでに生徒全員が弓道を体験できることが、学校の特色の一つとなった。弓道の「正射必中」の考え方が教師・生徒ともに少しずつ理解できたように思う。

開かれた学校づくりにつながるとともに、地域の伝統や文化を学び、地域を誇りに思える生徒の育成につながった。外部指導者の専門的な指導や地域の道場を活用することで生涯スポーツに対する関心・意欲を高めるのにも有効であった。さらに、柔道は他人との戦いであるが、弓道は自分との戦いであると感じたなど、柔道と弓道という性質の異なる武道を体験した良さを感想として述べる生徒が見られた。

今後の課題として感じていることは、弓道は技術の習得に時間がかかるため、基本動作の鍛錬の時間と実際に弓を射る時間のバランスが難しい点が挙げられる。弓道は専門性が高いため、外部指導者の活用が不可欠であるが、今後も継続的に指導者を確保することが可能かどうか不安な面がある。また、生徒数の減少により、令和4年度には男子生徒が1名になるので、柔道では、授業形態の工夫が必要である。